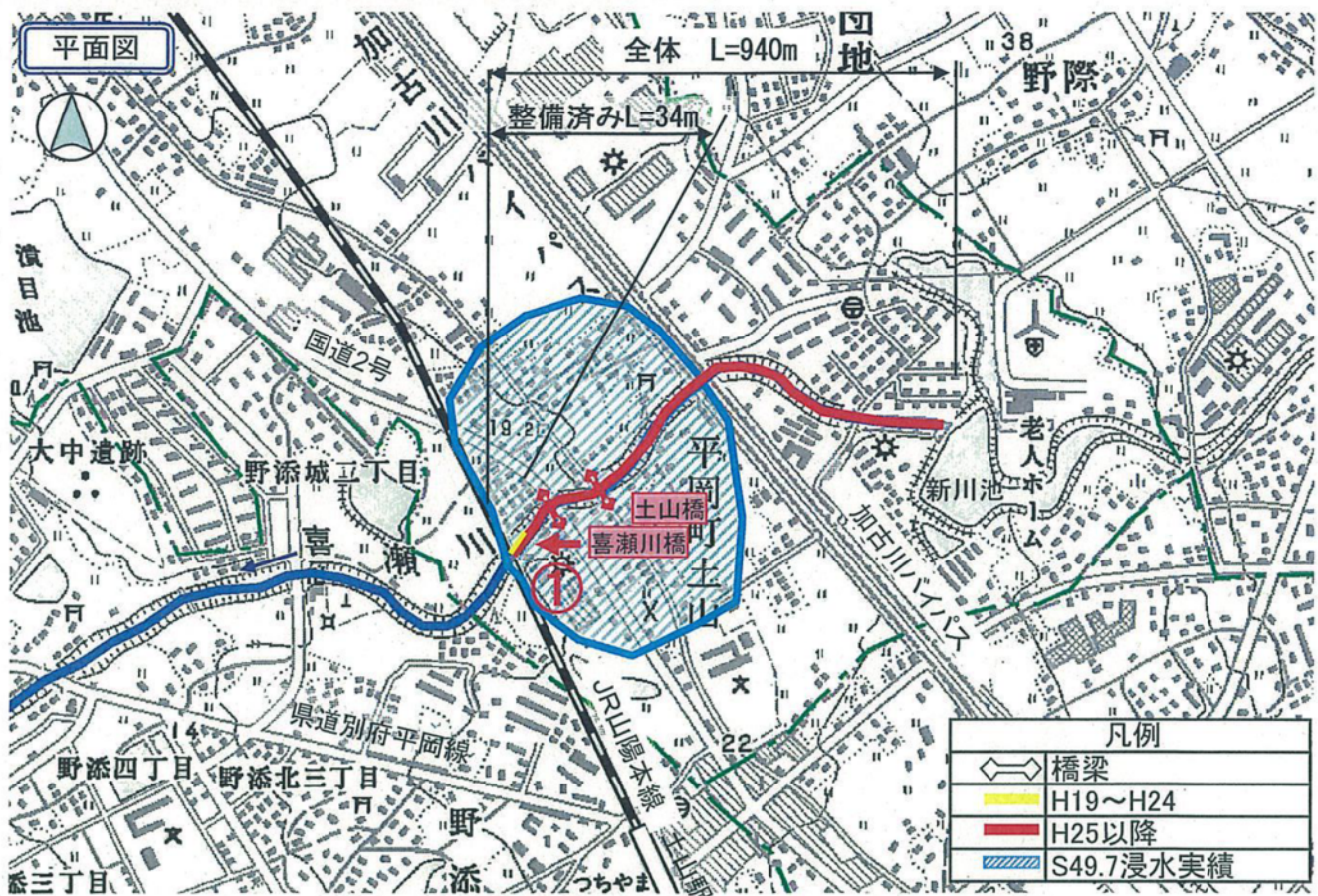


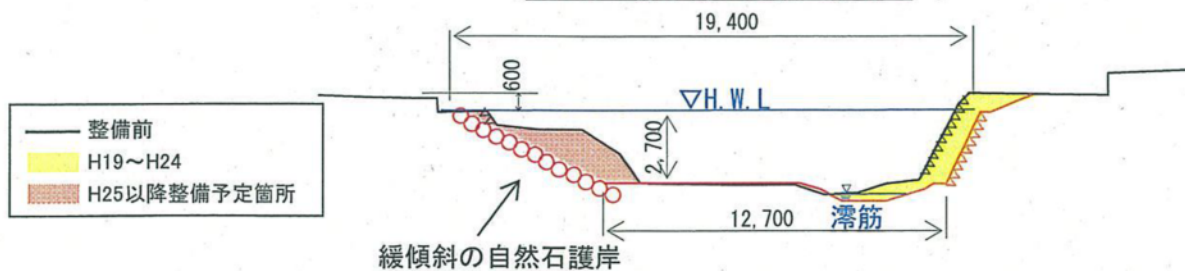
# 整備状況



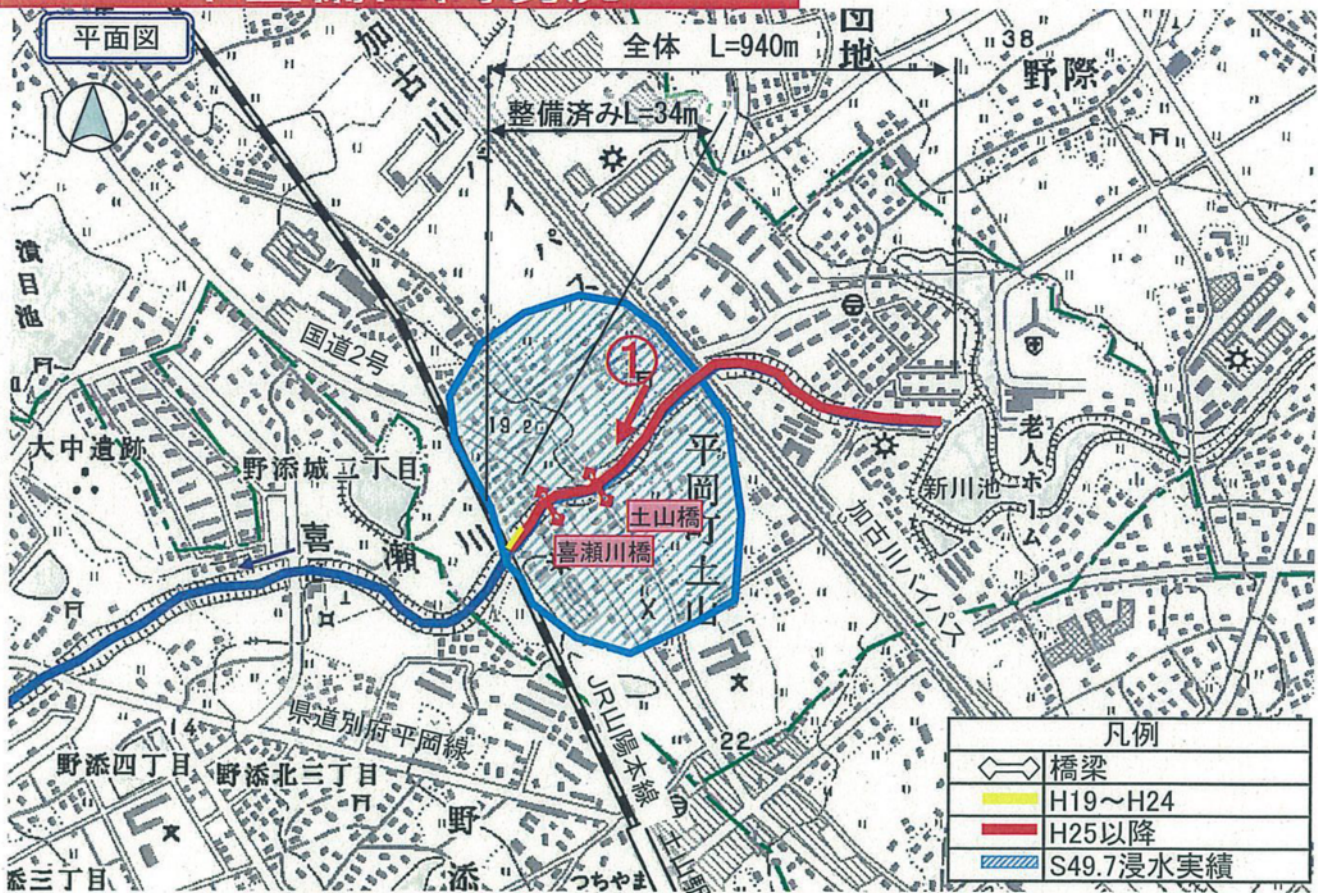
## ① JR山陽本線上流



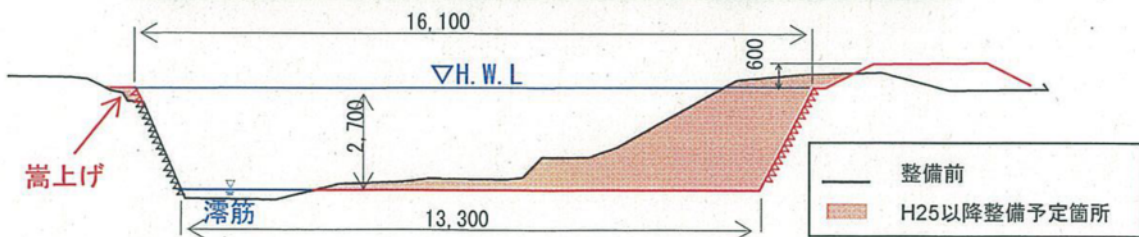
## JR山陽本線上流 横断面図



# 未整備区間現況



①加古川バイパス下流



# 1. 実施工程表

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39
用地買収	■	■	■	■	■	■	■	■		■	■			■						
掘削							■	■							■	■	■	■	■	■
築堤・護岸			■	■			■	■							■	■	■	■	■	■
橋梁									■	■	■	■	■	■						
									■	■	■	■	■	■						
									■	■	■	■	■	■						

# 2. 事業効果について

## (1) 費用対効果

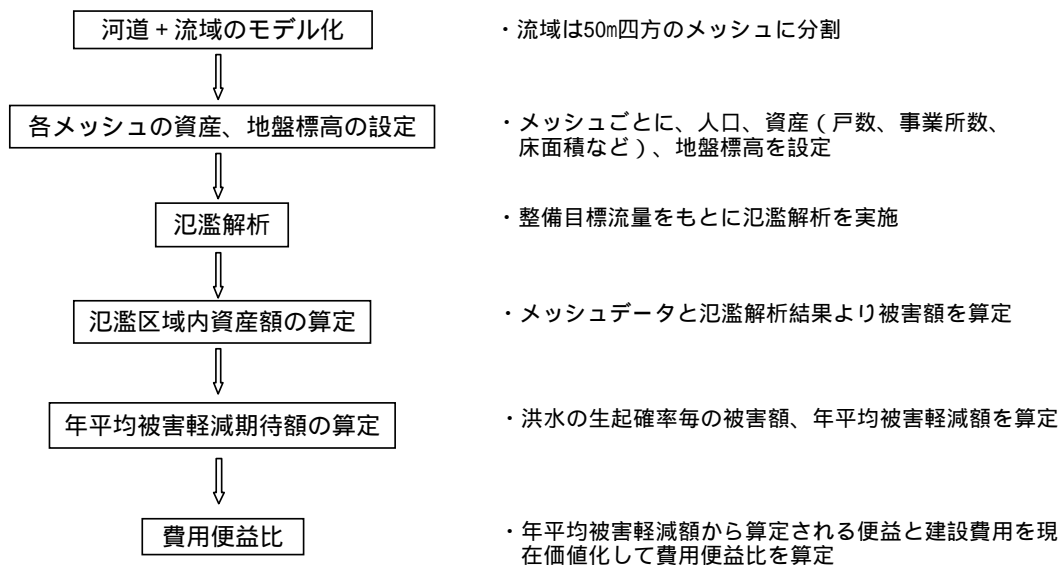
<凡例>	
■	前回評価時点
■	現計画

便益 (B) の項目

- 1) 便益 = 治水事業を実施することによる被害軽減期待額を現在価値化  
 被害額 = 一般資産被害 (家屋、家庭用品、事業所償却資産、農漁家償却資産等)  
 + 農産物被害 + 公共土木施設等被害 + 営業停止被害 + 応急対策費用

- 2) 費用 = 「建設費 + 維持管理費 - 残存価値」を現在価値化

治水経済調査マニュアル (案) 建設省河川局 平成17年4月



費用便益比 (B / C) 算出根拠

総便益 (百万円)	便益 (B)	総費用 (百万円)	費用 (C)		B / C
	代表的な効果		事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
7,942	計画規模の降雨に対して、浸水戸数 234戸の解消、浸水面積 11.1haの解消	1,291	1,156	135	6.2

河川整備計画の整備区間を対象

## (2) 費用対効果に含まれない効果

国道2号等の交通途絶の解消 避難所(平岡東小学校)周辺の浸水被害の解消 河床に滲筋を設け、平常時においても瀬や淵など変化のある流れを確保 JR山陽本線の上流の施工にあたっては、緩傾斜の自然石護岸を整備することにより、親水性を確保
---

# 河川事業の効果

対象事業: 二級河川喜瀬川 総合流域防災事業

## (1) 費用対効果

評価の視点	効果項目 (費用対効果の便益内容)
治水安全度の向上	浸水被害の軽減 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般資産被害 (家屋、家庭用品、事業所償却資産、農業家償却資産等)</li> <li>・農産物被害、公共土木施設等被害、営業停止被害、応急対策費用</li> </ul>

## (2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目
社会経済活動等の安定	道路、鉄道等の交通途絶による波及被害の解消
	医療施設や防災拠点施設など重要施設被害等の解消
魅力ある河川空間の創造	多様な生物の生活環境の保全・再生・創出
	親水空間の整備

該当する事業内容	
	国道2号等の交通途絶の解消
	避難所(平岡東小学校)周辺の浸水被害の解消
	河床に滲筋を設け、平常時においても瀬や淵など変化のある流れを確保
	緩傾斜の自然石護岸を整備することにより、親水性を確保

印は当該事業効果の主な項目